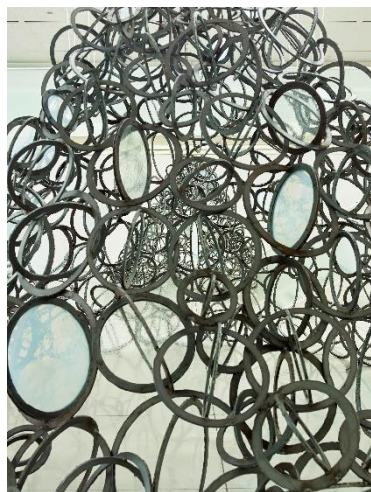
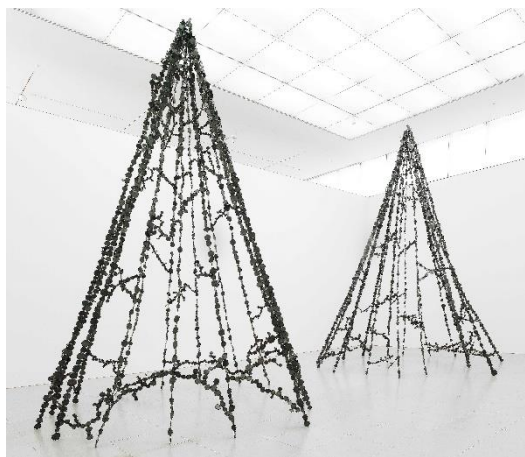


そこに光が降りてくる 青木野枝 / 三嶋りつ恵

Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima



朝香宮邸がつむぎだす鉄とガラスの創造



参考図版

(上段左から) 青木野枝《霧と山》(部分) 2019年 鹿児島霧島アート
の森 ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY (撮影: 山本紇)
/ MAKING OF 'ASCENSION' (撮影: 三嶋りつ恵)
(下段左から) 東京都庭園美術館 本館 第一階段 (撮影: 黒目写真館)
/ 三嶋りつ恵《VENERE》2023年 個人蔵 ©Ritsue Mishima, courtesy
of ShugoArts (撮影: Francesco Barasciutti)
/ 青木野枝《ふりそそぐものたち II》2012年 豊田市美術館、愛知
©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY (撮影: 山本紇)

2024.11.30 – 2025.2.16

東京都庭園美術館

陽光に溢れている空間。闇の中に差し込む一筋の光…。
私たちは生きている間に、様々な表情の光に出会います。

本展は現代美術のフィールドで長く活躍を続ける二人の作家、青木野枝、三嶋りつ恵が、
朝香宮邸をめぐる各所に作品を配置し、ここに新たな光を招きいれようとする企画です。

青木野枝は鉄を、三嶋りつ恵はガラスを用いて創作を重ねてきましたが、
どちらの素材も朝香宮邸のアール・デコ装飾に特徴的に使われているものです。

過去の声に耳を澄ませ、対話を重ねて生み出された二人のインスタレーション。
私たちの前に未知なる風景が立ち上がります。

Highlights

——「光」に特別な想いを込めてきた二人の現代作家による最新インスタレーション
——アール・デコの館・朝香宮邸を舞台に、時代を超えて響き合う“鉄とガラス”

青木野枝 | Noe AOKI

青木野枝（1958-）は、一貫して鉄を素材に抽象彫刻を生み出してきた彫刻家です。鉄板から線や円を切り出し、そのパーツを展示空間に合わせて巧みに繋ぎ合わせて作品化します。鉄という重い素材を用いながらも、その作品は軽やかな浮遊感を放ち、まるで空間の中に描かれたドローイングのようにも見えます。その場に現れる一期一会の作品からは、目にみえないエネルギーが放出され、見る人に深い印象を残します。



参考図版（左から）
青木野枝ポートレート／
青木野枝《光の柱Ⅰ》2023年 市原湖
畔美術館、千葉／青木野枝《もどる
水》2023年 gallery21yo-j、東京
（中央／右）©Noe Aoki, courtesy of
ANOMALY（撮影：山本耕）

三嶋りつ恵 | Ritsue MISHIMA

三嶋りつ恵（1962-）は、ヴェネツィアにアトリエを構え、現地のガラス職人と共に作品を制作しています。無色透明なガラスにこだわり、有機的な形の作品で知られています。伝統ある古い建造物のなかで作品を展示することも多く、常に置かれる空間の特性を意識したインスタレーションで評価を得てきました。三嶋の作品はそこに存在する気配や場のエネルギーを汲み取り、プリミティブともいえるガラスのフォルムによって増幅させる力を備えています。



参考図版（左から）
三嶋りつ恵ポートレート Mishima at
Glass Factory in Murano（撮影：Oliver
Haas）／三嶋りつ恵《FONDO DI
LUCE》2022年（撮影：三嶋りつ恵）
／“HALL OF LIGHT 2019”（撮影：
Tadayuki Minamoto）

会場	東京都庭園美術館（〒108-0071 東京都港区白金台5-21-9）TEL. 03-3443-0201 目黒駅 JR 山手線／徒歩7分 白金台駅 都営三田線・東京メトロ南北線／徒歩6分
会期	2024年11月30日（土）～2025年2月16日（日）
開館時間	10:00-18:00 ＊入館は閉館の30分前まで ＊毎週月曜日および年末年始は休館 詳細はWEBサイトへ
入館料	一般＝1,400円／大学生＝1,120円／中・高校生＝700円／65歳以上＝700円



X



Instagram

Website www.teien-art-museum.ne.jp

Follow us on Facebook, X, Instagram @teienartmuseum

※記載内容に変更が生じる場合があります。